



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第3回)



財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

マナー編 高校野球連盟の章旗の意味

高校野球連盟旗には「F」の文字がデザインされていますが、どんな意味があるのでしょうか?

日本高等学校野球連盟の旗は、ホームベースにボールとFの文字が図案化されたもので、兵庫県高野連のこのHPの見出しにも使われています。特に「F」はフェデレーション(連盟)を表していますが、さらにフェアプレイ(公明正大)、ファイト(勇気)、フレンドシップ(友情)というマナーの根源ともいえる三大精神の象徴です。



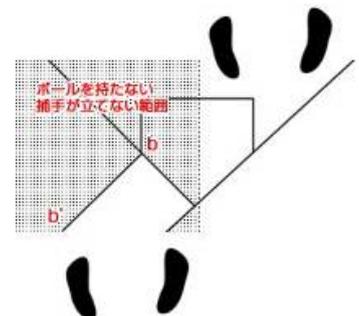
想像を絶する東日本大震災の発生から12日、第83回のセンバツ大会が予定通り甲子園で開催され、開会式の選手宣誓は感動的な呼びかけとなりました。被災の悲しみに寄り添う思いから始まり、「仲間とともに頑張り、仲間を支えられることで困難を乗り越えることができる(=友情・勇気)」、「この大会を精一杯元気を出して戦う(=勇気)」、さらに「全身全霊で正々堂々とプレイすることを誓う(=公明正大)」と結んでいました。奇しくも阪神淡路大震災の年に生まれた選手を代表しての決意は、高校野球が示す心意気を改めて確認する尊い場となったのです。来阪しての応援が難しい被災地からの出場校に、県内の高校生が大勢スタンドに駆けつけたのも「友情」でした。「がんばろう! 日本」もまた、支え合って困難に立ち向かう「F」精神以外の何ものでもありません。甲子園球場のセンターポールには、半旗として掲げられた連盟旗が春の浜風に優しくなびいていました。

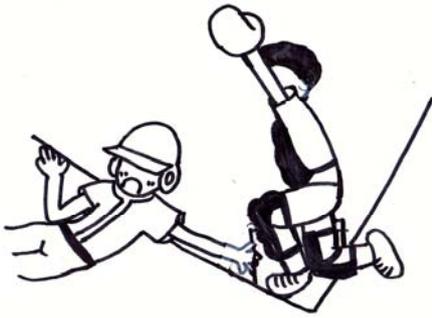
ルール編 本塁上のクロスプレイ (2010年秋季兵庫県大会より)

1点差の最終回、2死二・三塁と一打逆転サヨナラの場合。打者の右前打で三塁走者が生還し同点、続いて二塁走者も本塁へ突入。回り込むようにスライディングしたものの捕手にタッグされました。延長戦に入るとしたら、球審はタイムを宣告し、タッグされた走者に本塁を踏むよう指示して得点を認めました。私が応援していたチームはサヨナラ勝ちとなりましたが、いったいどうして?

球審はプレイが落ち着いたのを確認して「タイム」を宣告し、捕手にオブストラクション(走塁妨害)を適用しました。規則7・06(a)は、野手が走塁を妨げた場合の罰則規定です。本項の付記には「捕手がボールを持たないで得点しようとしている走者の進路をふさぐ権利はない」と明記されています。さらに『高校野球特別規則』では、「ボールを保持している時しか塁線上に位置することはできない」と重ねて規定しているのです。*

捕手があらかじめ本塁を覆い隠すようにして返球を待ち構える(一般にブロックと呼ばれる)行為がなければ本塁に到達できたと判断し、球審は二塁走者に触塁を促して得点を認めました。高校野球特別規則に定める正しい捕手の位置を





上図で確認してください。

本塁上のクロスプレイは最もエキサイティングな場面です。走者の足と野手の肩との真剣勝負が、捕手の規則違反で台無しになってしまいます。何より大事故につながる危険性も無いとは言えません。練習試合などでは得点圏に走者が来た時、妨害発生を未然に防止する意味で球審が捕手に声かけすることもあります。日ごろの練習から心がけておきましょう。

※高校野球特別規則 19.捕手の本塁上のプレイ

規則7・06(a)【付記】(捕手のブロック)の適用について、高校野球では捕手は、『ボールを保持しているときしか塁線上に位置することはできない』こととする。